

議 題：平成30年度 宮城県試験研究機関評価委員会第1回工業関係試験研究機関評価部会

日 時：平成30年10月30日（火） 午後1時15分から午後5時15分まで

場 所：宮城県行政庁舎 9階第一会議室

出席者：当日配付資料2参照

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 挨拶 宮城県産業技術総合センター所長 堀 豊
- 4 機関紹介 宮城県産業技術総合センター所長 堀 豊
- 5 議事

(1) 評価部会の運営について

(2) 審議事項（事業推進構想案について）

〔質疑〕

○菅野委員 製品の売上げと金額については良い成果が出ていると感じる。競争的資金の獲得については、件数が下がっているため、今後課題になりそうと考える。

○斎藤副所長 競争的資金に関しては、大学等が提案する案件が増えており、競争率が高くなっている。弊所としては、今後も積極的な提案をしていくが、単に応募するだけではなく、採択率を向上させるような取り組みを検討したいと考えている。

○菅野委員 重点技術分野について、いろいろな分野があるが、機械加工と材料分析、食品バイオと分析など、各分野が互いに連携できる部分があると思うが、このあたりの連携についてはどう考えるか。

○斎藤副所長 基本的には各部でテーマアップされているが、部間連携によりそれぞれの特技を活かして進めていく。

○堀所長 事後評価の課題の中で、機械加工における工具先端の温度測定を IoT により実施するという、金属加工の担当部と機械電子情報技術部が連携する動きが出てきている。この様なところから新たな展開が生まれることが期待される。

○松田委員 外部資金について。震災前に実績が伸びてきて、震災時に復興予算の関係で急激に増えたが、その後の実績が落ちている。競争が激しくなったとの説明があったが、それ以外の要因もあるのではないか。どのように分析しているか。余力がなくなったということか。

○堀所長 以前は、大学は文科省、我々のような公設試は経産省という棲み分けがあったが、最近では大学等も積極的に経産省の資金を取りに来る傾向がある。たとえば、今年度のサポインの競争率は2.6倍で、その中には大学の応募もあり、競争率は厳しい状況。また、近年は企業の方々も本業で忙しく、新規製品開発に手を出せない状況にあるのではないかと感じる。この点については積極的に働きかけて新たな製品開発等に取り組んでいただけるような動

きをしなくてはならないと考えている。これは、技術改善支援の実績に表れており、企業からの依頼が少なくなっている。技術支援担当部署にこのあたりの分析をさせているところである。明確な回答はないが、このような背景があるのではないかと考えている。

○佐浦委員 「地域の視点を大切にし」とあるが、「地域の視点」とは具体的にどのようなものか。また、私たちは普段県内にこのようにものを作っている会社があることを知る機会がないが、宮城県産業技術センターでは、企業の技術や特徴を発掘したり知るきっかけとなる情報はどのようにして得ているのか。

○斎藤副所長 日々の活動の中でさまざまな企業の現場に出向いて情報交換をしている。その中で、地域企業の問題点やニーズを常に把握するようにしており、それを踏まえて地域の視点に落とし込み、地域として必要な事項の仮説を立てて取組んでいる。企業情報については、日々の企業支援のほか、企業訪問や技術交流会などにより把握している。技術交流会は、産技セや企業を会場として、地域企業からの自社の紹介と産技セからの取り組みの紹介を行うもので、そのようなやりとりから次の展開へつなげることもある。

○阿部委員 食品製造業では、働き手の確保に各企業が苦勞している。特に水産関係で人が集まらない。先ほどのホタテの例のように生産性を向上させることが鍵となると考えるが、他の事例をあまり聞かない。今取り組みとして進んでいる案件はあるか。

○斎藤副所長 産技セにおいては現在では特化して実施している案件はない。水産加工企業からは要望をいただいている項目もあるので、順次対応していきたい。

○赤羽副部長 県の製造品出荷額増大を目指した技術開発等を実施しているということで、驚き感心する。地元にいながらも知らない商品がたくさん生み出されているがようだが、それらがどの程度の市場規模を目指していて、その目標に対してどの程度の達成度なのかというところを教えていただきたい。

○斎藤副所長 今回示している売上げに関しては、一緒に実施した企業様と綿密なやり取りをさせていただき、その中でご厚意で情報をいただいたもの。そのため、すべての売上げを把握しているわけではない状況でまとめている。今後も、できる限りわかりやすくなるように、開示できるところは開示していきたい。

○福村部長 企業の問題点を常に把握しているということで、その点は素晴らしい。受け身ではなく、将来の宮城県の方向を踏まえて支援を行なうことはないのか。例えば、ロボット化、空港が近くにあるので航空機産業、角田に JAXA があるので宇宙衛星、というように未来を見据えた支援をするのも良いのではないか。

○斎藤副所長 航空機部品を扱っている県内メーカーさんとお付き合いがあり、部品の機械加工の部分で一緒にしている。また、成形時に使用する離型シートなど、次のことを踏まえた開発展開にも常に取組んでいるので、今後さらに深掘りしていきたい。

○福村部長 アンケートを企業からとることはあるか。

○斎藤副所長 ケースバイケースでとることもある。

○松田委員 重点注力産業分野が今年度までの 5 本から 3 本に絞ることになる。それも宮城県下で既にある程度産業出荷額があるものだけに絞って書き上げた構造になっているが、何か

お考えがあるのか。また、重点技術分野と重点注力産業分野の関係を教えてほしい。

○斎藤副所長 重点注力産業分野と重点技術分野との関係は、重点注力産業分野3分野を実現するための基盤となる技術として5つの技術分野がある、というもの。また、重点注力産業分野が3つには絞られたが、もともとの5分野には重複する部分があったため、重複感があった部分をまとめたことで3分野となったものであり、実際に取組む内容は第三期と同じようなものとなっている。

(3) 審議事項(研究課題の事後評価について)(非公開)

(4) 審議事項(研究課題の事前評価について)(非公開)

(5) 報告事項(平成29年度評価部会審議結果への対応について)(非公開)

6 挨拶 宮城県産業技術総合センター 副所長兼企画・事業推進部長 斎藤雅弘

7 閉会